

● WINDS CAFE 293 in 原宿 ●

【松岡麻衣子無伴奏ヴァイオリンコンサート】



松岡麻衣子(ヴァイオリン)、岩瀬龍太(クラリネット)
2021年5月23日(日) 午後2時半開場

カーサ・モーツァルト 東京都渋谷区神宮前 1-10-23 3階
地下鉄「明治神宮前」出口 5 徒歩 2 分 / JR「原宿」徒歩 5 分

入場無料(投げ銭方式) 完全事前予約制・定員 20 名
14:30 開場 15:00 開演 16:00 終演予定

▼松岡麻衣子さんからの手紙

2018年にフィディアス・トリオのメンバーとして WINDS CAFE に出演させていただいてから、今回で2回目の出演となります。再び WINDS CAFE のステージに立てることを、嬉しく光栄に思っております。

今回のプログラムは、主宰の川村龍俊さんの「大いなる遊び」という発言に触発され、数ある無伴奏ヴァイオリン作品の中から、今の自分が心惹かれる曲を集めています。

音色そのものに耳を澄ませていくタイプのものから、パズルを解くような構造の面白さを発見できるような作品まで、バラエティ豊かな選曲となりました。ヴァイオリンがもつ無限の可能性に、様々な角度から光を当て、色彩豊かなこの楽器の魅力をお届けします。

また、共演にクラリネット奏者の岩瀬龍太さんを迎え、木下正道さんの新作を披露します。
気ままな散歩のようにお楽しみいただければ幸いです。

WINDS CAFE 293 in 原宿

松岡麻衣子 無伴奏ヴァイオリンコンサート

2021年5月23日(日) 午後3時開演

Program

イヴァン・フェデーレ：Thrilling Wings (2013)

徳永 崇：音戸の舟歌 ヴァイオリン・ソロのための (2009)

ヘルムート・ラッヘンマン：Toccattina (1986)

赤石 直哉：無伴奏ヴァイオリンのための小組曲 (2019)

木下 正道：灰、灰たち..灰…VII バスクラリネットとヴァイオリンのための (2020 初演)

ブルーノ・マントヴァーニ：Happy Hours for solo violin (2007)

共演 岩瀬 龍太 (クラリネット)

イヴァン・フェデーレ：Thrilling Wings (2013)

イヴァン・フェデーレ (Ivan Fedele 1953-) はイタリアを代表する現代作曲家のひとり。

《Thrilling Wings》は、L.ペリオの無伴奏ヴァイオリン作品《セクエンツァVIII》の影響が、色濃く感じられます。疾走感溢れる即興的な導入部と、特徴的な重音を多用した中間部、そして「瞑想的に」と鈍色のグラデーションのような音色と、ピュアな倍音の美しさが、演奏会の冒頭に相応しいと思い、選曲しました。

(松岡 麻衣子)

徳永 崇：音戸の舟歌 ヴァイオリン・ソロのための (2009)

本作品は、広島県安芸郡音戸町に伝わる「音戸の舟歌」から取材しています。この歌は、音戸の瀬戸と呼ばれる幅100メートルにも満たない海峡を往来する際、船頭が歌っていたとされ、日本三大舟歌として広く知られています。余談ですが、作曲者の母方の実家が音戸町にあり、正午になるとピアノ独奏によるこの曲が町中に流され、幼少の頃は、その不気味なアレンジの響きに若干のトラウマを抱いておりました。

本作品は上記の旋律をテーマにしたバリエーションです。しかし、単に様々なバージョンを羅列するのではなく、時の流れの中で「変わらないもの」と「変わっていくもの」の2タイプのカテゴリーを設け、それらを交互に演奏することとしました。前者は時間構造がテーマと同じであり、後者はそれと異なります。それぞれ3曲ずつあり、2カテゴリーの曲が交互に演奏されさえすれば、1カテゴリー内での順序は問いません。演奏家に選んで頂く事によって、楽曲構成へ介入してもらうことを意図しています。移ろい行く景色の中、渡舟が此方と彼岸を往復するようなバリエーションの交代から生まれる変化を、記憶の中に堆積できたらと願っています。(徳永 崇)

徳永 崇/Takashi Tokunaga

1973年広島生まれ。広島大学大学院教育学研究科、東京藝術大学音楽学部別科及び愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。ISCM World Music Days入選 (2002/香港、2014/ヴロツワフ)。武生作曲賞受賞 (2005)。サントリー芸術財団第9回「佐治敬三賞」受賞 (2010)。近年は生体のシステムを作曲に援用している。現在、広島大学大学院教育学研究科准教授。

ヘルムート・ラッヘンマン：Toccattina (1986)

ヘルムート・ラッヘンマン (Helmut Friedrich Lachenmann 1935-) は、1986年に出版された《ヴァイオリンのための現代音楽奏法》という本に、この作品を書きました。革新的なヴァイオリン奏法が満載のこの作品は、今では世界各地の現代音楽祭で演奏されています。

私がこの作品に初めて出会ったのは、2006年のダルムシュタット現代音楽祭で行われた、ヴァイオリニストのメリッサ・メリンガー氏のレクチャーでした。当時は、その奏法の目新しさに瞠目しましたが、より感銘を受けたのは、その数年後にラッヘンマン自身の教えを受けた時です。

ノイズや特殊奏法といった表面的な事象に捉われず、その先に聞こえてくる音楽を探求したいと思います。
(松岡)

赤石直哉：無伴奏ヴァイオリンのための小組曲 (2019)

私にとって初めての無伴奏ヴァイオリン作品です。

古典的な組曲と比べ、各章の独立感は薄く、アーチ形式によるシンメトリーな構成になっています。様々な様式がミックスされていますが、無秩序にはならず、いわば「管理された混沌」のようなものを目指しています。歴史あるこのジャンルを畏れつつ、しかし怯まず書いたつもりです。2019年、松岡さんの鮮烈な演奏で初演されました。この度再演していただけることを心から嬉しく思います。(赤石 直哉)

I. Prelude II. Metamórphōsis III. Sarabande IV. Scherzo V. Postlude

赤石直哉 / Naoya Akaishi

国立音楽大学作曲学科卒業、同大学院音楽研究科作曲専攻修了。作曲を佐藤眞、山口博史、トーマス・マイヤー＝F、福士則夫の各氏に、ピアノを竹山悠紀子氏に師事。第23回現音作曲新人賞入選。第14回日本歌曲コンクール作曲部門最優秀賞、及び(株)全音楽譜出版社賞受賞。第37回ピティナピアノコンペティション新曲課題曲賞受賞(特級)。東京音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。日本現代音楽協会理事。

灰、灰たち..灰…VII バスクラリネットとヴァイオリンのための (2020 初演)

2つの楽器が、制限された楽器法の中で、密やかに対話し続けます。それらは最初はあまり噛み合わず、お互いに歩み寄ろうともしません。しかし厳密な時間の管理の下、いくつかの音風景を巡回しつつ、それらは次第に時の推移を共有することを自覚しつつ、おぼろげながらの「歌」を響かせます。やがで音楽は次第に沈黙に食いつぶされ、消尽されてくのですが、それでもこの音たちの有りようは、私にとっては何かが徹底的に焼きつくされた、その「灰をすくう匙」(パウル・ツェラン)からのひと掬いの灰(たち)のこぼれ落ちる様である、とも言えるのです。それらの物言わぬ「灰」たちの声を、想像力をもって聴き取り書き取る事こそが、私にとっての作曲であります。

なおこの曲はもともと松岡さんと間部令子さんに初演してもらった、アルトフルートとヴァイオリンのための「灰、灰たち..灰…I」の編曲のつもりで書き始めたのですが、そのうち発想がどんどん変わってきてしまい、ほとんど別の曲になりました。(木下 正道)

木下 正道 / Masamichi Kinoshita

1969年福井県大野市生まれ。ブラスバンドやヘヴィメタルの経験の後、東京学芸大学で音楽を学ぶ。武満徹作曲賞などに入選。アコースティック楽器のための作曲、演奏会の企画、電気機器による即興演奏、を三本の軸にして活動を展開。武生国際音楽祭「新しい地平」アシスタント。作曲家グループ「PATH」メンバー。多くの、特に若い世代の音楽家達による企画に、作曲家として、また即興演奏家として招聘され、作曲委嘱を受ける。

ブルーノ・マントヴァーニ：Happy Hours for solo violin (2007)

ブルーノ・マントヴァーニ (Bruno Mantovani 1974-) の作品には、演奏家の表現欲求を掻き立てる魅力があります。《Happy Hours》では、パズルを解いている時のような、構造を発見する面白さがあり、その一方で、計算された即興性も同時に存在します。また、実際に演奏をしてみると、書かれている音そのものと、身体運動が結びつく不思議な快感が得られるのです。

ぜひライブ演奏で、この作品の爆発的なエネルギーを感じていただければと思います。(松岡)

Performers

岩瀬 龍太/Ryuta Iwase (クラリネット)

桐朋学園大学卒業後、ベルギーのアントワープ王立音楽院とモンス王立音楽院にて、ワルター・ブイケンズ、ロナルド・ヴァン・スパンドングの両氏に師事。これまでに、ピエトロ・アルジェント国際室内楽コンクール第1位。マルコ・フィオリンド国際室内楽コンクール第3位。パドヴァ国際室内楽コンクール第3位。夏期国際音楽アカデミー(ウィーン)においてバルトーク賞を受賞。ウィーンモデルン現代音楽祭をはじめ数々の音楽祭に招聘される。

松岡 麻衣子/Maiko Matsuoka (ヴァイオリン)

桐朋女子高等学校音楽科を経て同大学音楽学部演奏学科卒業、同大学研究科修了。2008年に渡独、インターナショナル・アンサンブル・モデルン・アカデミー(フランクフルト音楽・舞台芸術大学)にて研鑽を積む。独仏を拠点にトリオ・シュトイアーマン、アンサンブル・リネア等のヴァイオリニストを務める他、アンサンブル・モデルン、アンサンブル・レゾナント等の演奏会に出演し、世界各地の音楽祭に招聘される。2014年現代音楽演奏コンクール“競楽XI”第2位。Phidias Trio Tokyo奏者。

